

Q₀ 岡義博法律事務所報 第27号

高松市丸の内7番20号 丸の内ファイブビル5階

TEL (087) 821-1300

FAX (087) 821-1833

プロ野球スト

ついにプロ野球がストを行なった。プロ野球70年の歴史で初のストライキである。経営者側と選手会側の言い分のくい違いは、主として新規参入球団に関してであった。選手会側は2005年のシーズンに向けて新規参入に最大限努力をするよう求めていたが、経営者側は2005年シーズンの新規参入には消極的であった。

これは選手会側の言い分に理がありそうである。経営者側の発想には、できればもう1球団減らし1リーグにしたいという思いもうかがえる。これではプロ野球全体の衰退を招くことになるだろう。世論も選手会側に理解を示し、ストを指示する人は70%を越えていた。実際にストが行われた後も、選手会側に指示する声は変わらなかった。

このような情勢を背景に、経営者側も折れ、2005年シーズンの新規参入に向けて速やかに資格審査を進めることになった。当然といえば当然の方向転換である。

経営者側が自分の球団の既得権だけを考え、新規参入を認めないという事にこだわり続ければ、ファンは確実に減るだろう。野球は経営する球団や親会社のものではなく、ファンや国民のものであるという意識が必要

所 長 弁護士 岡 義 博

である。この点、サッカーは地域に根ざすという努力を続けており、Jリーグも地域に根づいてきている。組織にしても、上はJ1を頂点にして、下は少年サッカーまで、段階を踏んで上位の組織に属することができるようにしており、サッカー人口を増やすのに大いに役立っているように思われる。

野球界はプロとアマが完全に分断したまま長年、別の道を歩んで来た経緯がある。

最近になってプロアマ交流も行われているが、プロとアマを統一した組織はない。統一した組織を設けて、プロ野球もその傘下に入れて地域に根づかせる方向に向かうのが良いと思われる。いつまでも親会社の宣伝媒体であるという発想では発展性がないだろう。

ともあれ、2回目のストは回避され、2005年シーズンからの新規参入球団もありそうである。現在手を挙げているライブドアか楽天か、どちらになるかはわからないが、いずれも若い経営者であり、プロ野球の経営に新しい感覚が反映されるのは間違いないだろう。

プロ野球の古い体質の問題点は他にも多数ある。今回のストや新規参入球団を機に大幅な改革をして、時代遅れにならない野球界にして欲しいものである。



法の女神・テミス

この像は、ギリシャ神話の「法の女神」テミス(Themis …ギリシャ語で、「掟」「習慣」「法」「正義」を意味します)を形どったものです。

右手に掲げるはかりは、公平を象徴するとともに、悪の重さをはかり、剣は力による貫徹を象徴し、目隠しは無私をあらわすものといわれています。

日本でも、一般国民が刑事裁判に関与する制度ができた。裁判員制度である。欧米の陪審員制度にならったものであるが、米国とは違って、一般国民である裁判員のほか、職業的裁判官も加わり、一緒に裁判を担当する点が特長である。この裁判員法は今年5月に法律ができたが、実際に施行されるのは公布の日（平成16年5月28日）から5年以内という事になっています。国民にとっては、なじみのない制度ですから、5年間の周知期間を置こうということです。

これから数回にわたり、裁判員制度の概要を説明します。

裁判員として選任される可能性のある人は、衆議院議員の選挙権を有する者とされています。従って、20歳以上の人という事になります。欠格事由として、義務教育を終了しない者や禁錮以上の刑に処せられた者等があります。職業によって、裁判員になれない者もあります。国会議員や裁判官、検察官、弁護士（この三者はその職にあった者も含む）などです。警察官も含まれています。事件の被告人や被害者及びこれらの者の親族も不適格とされていますが、公正な裁判という観点から当然でしょう。また、裁判員を辞退できる場合もあります。70歳以上の人、地方議会の議員（但し、会期中に限る）、学生、生徒、重い疾病や傷害により裁判所への出頭が困難である人、介護養育しなければ日常生活を営

むのに支障がある親族がいる人、重要な仕事があって自分が処理しなければ事業に著しい損害が生じるおそれがある人等です。しかし、辞退者が増えてしまえば、制度の意味がなくなるので、辞退事由にあたるかどうかの判断は慎重にされることになるでしょう。

裁判員を選任する手順は次の通りです。毎年市町村選挙管理委員会が裁判員候補者の予定者をくじで選任します。この候補者の人数は地方裁判所が対象となる事件の取扱状況等を勘案して算定します。選挙管理委員会は裁判員候補者の予定者名簿を調製して、これを地方裁判所に送付します。裁判所は名簿に記載された者に対し、名簿に記載されている旨通知します（この段階では、まだ名簿に載っているだけであり、具体的事件で裁判員になることが決まっているわけではありません）。具体的事件があった場合に名簿の中から裁判員の候補者及び補充裁判員を選ぶことになります。その選任はくじによります。しかし、先に述べたように職業上の欠格事由や、欠格事由、不適格事由がある者、辞退事由がある者については、裁判員の選任からはずされることになります。選任に先立って、候補者には質問票が送付されてきて、これら欠格事由等がないか回答することになります。その回答に基づいて、欠格事由等があれば裁判員からはずされることになります。虚偽の回答をした場合には罰せられるので注意下さい。

エトセトラ

事務局 T・I

水をスーパーなどで買う日が来ると思っていましたか？今ではごくごく当たり前の事になっていますが、水に限らず緑茶に麦茶などわざわざ買って飲むようになるとは思ってもいませんでした。1983年に初めて日本で採取された水が売り出され、最近では日本国中、世界中から取り寄せられた水を買うことができます。500ccで98円くらいから300円を超えるものまで。水の種類も採取された場所に限らず、水の成分からも選択することができ、ペットボトルに貼られたラベルからも情報を収集することが可能で

す。マグネシウムとカルシウムの合計量が多いものを「硬水」。少ないものを「軟水」と呼び、一般にダイエットや健康には硬水、料理やお茶には軟水が適していると言われています。また、自然の炭酸が含有された「発泡水」も出てきて、一口にミネラルウォーターといっても様々です。これからは「フランス産のマグネシウムが多く含まれた硬水系の無発泡水を買ってきて」などと具体的に言わないと、水を買うのに何時間もかかってしまうかもしれません。

外部の方からの投稿です

YOUNG-MAN!

毎年の健康診断で、体重は標準以内になんとかおさまっているのに、体脂肪だけ「＊」（要注意マーク）。体重が減ろうが、増えようが、「＊」は消えない…。これではいけない！と、スポーツジムに通い始めました。

初めは、全然ついてゆけないエアロビクス、マシントレーニングで筋肉痛。ミシミシと唸る体で出勤する辛い毎日でした。

ここ最近「エアロビクス楽しい～、ランニングマシーンで10km走っても平気～、筋トレも

事務局 H・S

回数増やすぞ～！」と、がんばっていたら、体脂肪はゆるゆると減って、基礎代謝がぐんぐん上がりました。基礎代謝とは、体を動かさなくても、呼吸をする、心臓を動かすなどの生命活動のために常に使っているエネルギーのことで、年をとると減ってしまいます。また、この数値が上がると、太らなくなるそうです。

私の今の基礎代謝の数値は17歳の女子並。
「体がヤングマンになった！！」

奥 入 瀬

奥入瀬は明治の文人大町桂月の紹介により有名になった。「住まば日の本、遊ばば十和田、歩きゃ奥入瀬三里半」。奥入瀬溪流は、十和田湖の子の口から焼山までの14kmをいう。樹海の間を清らかな水が流れてゆく。ゆるやかに、そして時として激しく。多くの滝もある。壺井の滝、銚子大滝など景観を誇り、囲りの緑に映えている。

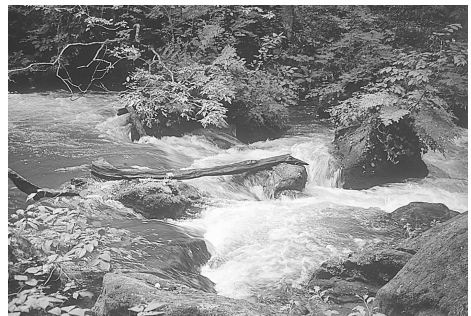


奥入瀬溪流を歩くには焼山から子の口に向かうのがよいだろう。焼山には十和田湖温泉郷があり、旅館、ホテルが何軒かある。むろん子の口から焼山に向かうコースもあるだろうが、焼山から子の口に向かい十和田湖に出会った時の感激は大きい。こちらのコースをお勧めする。但し、この14kmを全部歩くのは無茶である。

遊歩道を行き会い、離れあってバスの通る道路があるので、途中までバスでゆく手である。バス停石ケ戸から先の8km余りが絶景で、歩くのもこの位が限度であろう。

九十九島、阿修羅の流れ、天狗岩など次々と水と岩が姿を変えてゆく。コースの後半には滝が多い。銚子大滝のほか、白絹の滝、白糸の滝、姉妹の滝、九段の滝など次々と滝があらわれる。

春の新緑、秋の紅葉、いずれも清流と岩の織りなす溪流美を作り出す。奥入瀬は一見の価値がある。



子の口にたどりつけば、目の前は十和田湖。十和田湖は美しい湖である。深い青色の水をたたえている。みやげ物店や旅館がたくさんあるが、ここでのおすすめはヒメマス。焼いたヒメマスは絶品である。十和田湖へ行った折には是非食して頂きたい(Y.O)

高松 ウォッチング

事務局 E・O

今年の夏、ノルウエーからのホームステイを受け入れた。名前はインガー。年齢は19才（我が家の長女と同じ年だが、まるで大人と子供）。背の高い、綺麗なお嬢さんだった。

2家族で預かったが、ファーストファミリーで日本文化について学んできたので、我が家では遊びのモード。片言の英語と、電子手帳を片手に奮闘（国際交流？）が始まった。

彼女のイメージでは、日本は海に囲まれているので、どこへ行ってもビーチ。時は夏。サマーケーションのまっただ中。サーフィンをして、砂浜で甲羅ぼしでもしようと思っていたようだ。聞くところによると、北欧の人は日照時間が少なく、夏にしっかりお日さまにあたっておく習慣があるようで、私達が肌を隠すのを非常に不思議がっていた。

彼女の希望を叶えて上げようと、イルカと泳げるドルフィンセンターを予約。彼女も楽しみ

にしていたのだが・・・泳いでいたのは数人の子供たち。なんとも期待はずれ。じゃー次はとプールに連れていったが、（今度は期待しないようにと何度も念を押す）背の高い彼女は腰までしか水がない。トホホ。

日本では砂浜でもプールでも遊んでいるのは、子供ばかり。日本で、大人が浜辺でのんびり遊ぶなんて・・・暑い夏も、ただひたすら働いている我が身がふびん（どうだー。まいったかー！これが日本の文化だー！？）。

彼女の願いを叶えるには、ハワイへでも行ってもらうしかない。

結局、彼女が我が家に来て、一番気に入ったのは、大阪に住んでいる長女が案内した大都会だった。

